

授業実践事例

小学校 第6学年 題材名 アートを読み取る名探偵になろう！～アート・カルタを楽しもう～

内容のまとめり:第5学年及び第6学年 鑑賞…「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

1 題材の目標

- (1) アート・カードの美術作品を見るときに感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解する。
- (2) 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、アート・カードの美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- (3) 主体的にアート・カードの美術作品を鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アート・カードの美術作品を見るときに感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、アート・カードの美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	つくりだす喜びを味わい主体的にアート・カードの美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

題材の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を御参照ください。



3 題材の指導と評価の計画(全1時間)

時間	■学習のねらい・学習活動	知 技		思		態
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1	<p>■「アート・カルタ」ゲームを通して、アート・カードの美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりしたことを、友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を深める。</p> <p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>2 「アート・カルタ」ゲームをする。</p> <p>3 アート・カードの作品について、教師の説明を聞く。</p> <p>4 本時を振り返る。</p>	○ 観察 対話 ワーク シート		◎ 観察 ワーク シート	◎ 観察 対話 ワーク シート	

導入

①題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、本時の見通しをもたせる導入の場面を設定します。

事前準備

②児童が、進んで見たり、触ったり、話したりするなど、能動的な鑑賞活動を行うために手立てを工夫し、必要な準備を考えます。

【手立ての例】

「アート・カルタ」や「マッチング・ゲーム」などのゲームをする、テーマを決めて自ら鑑賞の対象を選ぶ、児童が興味や関心をもつことができる写真や絵本、アニメーションなどを活用する、工芸品などを実際に使って確かめたり、置き場所を考えたりする、付箋に書いた気付きを友人へ「感想のプレゼント」とする、等。

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす〔指導に生かす評価〕。

◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す〔記録に残す評価〕。

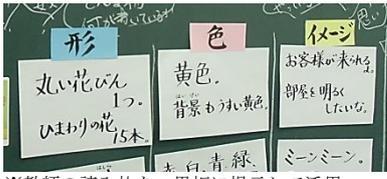
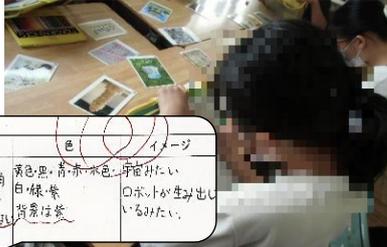
題材の指導と評価の計画の立て方については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や佐賀県教育センターHP「学習評価の進め方」を御参照ください。



4 本時の目標

作品から感じ取った形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもち、言葉や文章で表したり、話し合ったりし、自分の見方や感じ方を深める。

5 本時の展開(全1時間)

	学習活動	指導上の留意点(口評価)	ポイント									
導入	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p>   <p>※教師の読み札を、黒板に掲示して活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 形や色、イメージに着目させ、鑑賞する視点【3つのポイント】を児童から引き出すために、教師が出題者となり、「アート・カルタ」ゲームを全体で行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【3つのポイント】</p> <p>①形 ②色 ③イメージ</p> </div> <p>⇒ 工夫1:導入場面での鑑賞する視点の提示の例(p.4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【3つのポイント】からつなげて、本時のめあてを確認する。 	<p>ポイント</p> <p>【導入の工夫】 導入 児童に題材への関心・意欲を高め、本時の見通しをもたせるために、「アート・カルタ」ゲームを全体で行います。</p> <p>【鑑賞する視点】 「アート・カルタ」ゲームを行いながら、形や色、イメージに着目させて、児童から造形的な視点を引き出します。</p> <p>【「めあて」の提示】 題材の目標を踏まえ、この授業で何ができるようにすればよいのかを、児童が具体的にイメージできるようにします。 題材設定</p>									
展開	<p>2 「アート・カルタ」ゲームをする。</p> <p>(1) ルールを知る。</p> <p>(2) カードを選び、*読み札を書く。 【個人①】</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形</th> <th>色</th> <th>イメージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丸や四角 三角 など いろんな形</td> <td>黄色黒・青赤・白色 白線・紫</td> <td>宇宙みたい 太陽がまわっているみたい。</td> </tr> <tr> <td>形の線はまっすぐいらないで</td> <td>背景は紫</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>*ワークシートに記入した言葉や文が読み札となる。</p> <p>(3) ゲームをする。 【グループ】</p>  <p>(4) ゲームをする。 【全体】</p> 	形	色	イメージ	丸や四角 三角 など いろんな形	黄色黒・青赤・白色 白線・紫	宇宙みたい 太陽がまわっているみたい。	形の線はまっすぐいらないで	背景は紫		<ul style="list-style-type: none"> 班ごとにアート・カード1セット、ワークシートを配り、ルールを説明する。※児童の実態や活動する場の設定のため、本時では、アート・カード1セットの枚数を20枚とした。 事前準備 選んだ作品から感じ取った【3つのポイント】を、ワークシートに簡潔な言葉や文(「ミーンミーン」「お花で部屋を明るくしたいな」等の擬態語や擬音語、登場人物の台詞もよい)で表現するよう促す。 <p>□「知識」の観点で、形や色などに着目している様子を観察する、問い掛ける、ワークシートを確認するなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームをする際は、同じカードで読み札をつくっていることも考えられるため、取ったカードは元に戻すことを伝える。 児童の活動の様子を見ながら、一人一人の見方や感じ方を大切に共感的な声掛けをする。 <p>□「思考・判断・表現(鑑賞)」の観点で、様子を観察する、ワークシートを確認するなどして児童の学習状況を把握し、記録に残す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 更に多様な見方や感じ方に触れるため、班の代表者の読み札でゲームを行い、全体で共有する。 同じカードを選んでも、書いた読み札には同じ所や違う所があるなど、一人一人の見方や感じ方は様々であることに気付かせる。 	<p>【書く活動の設定】 児童が、形や色、イメージを基に、作品から感じ取ったり考えたりしたことをワークシートに記入します。</p> <p>【学習状況の把握】 形や色などの造形的な特徴に気付いたり、同じ作品でも違う感じ方をしたりしている児童の様子も捉え、指導に生かします。 児童の見取り</p> <p>【共感的な声掛け】 一人一人が何を感じ、何を考えているのか、児童の表情、しぐさ、言葉、つくっている作品などから、児童の思いを汲んだ声掛けをしていくことが大切です。一人一人の工夫や変化などを具体的に認める声掛けをすることで、児童は、活動を更に深めていくことができます。 児童の見取り</p>
形	色	イメージ										
丸や四角 三角 など いろんな形	黄色黒・青赤・白色 白線・紫	宇宙みたい 太陽がまわっているみたい。										
形の線はまっすぐいらないで	背景は紫											

	<p>(5) 読み札を見直す。【個人②】</p> <p>友人の考えに「なるほど」と納得できたよ。いろいろな見方や感じ方があるんだな。</p> <p>3 アート・カードの作品について、教師の説明を聞く。</p> <p>T:この作品は、何を表していると思いますか？</p> <p>C:赤、黄、青がたくさん使われている。目玉のようなものもあるよ。ジェットコースターみたい。</p> <p>T:実は、この作品は作者が強く伝えたい思いがあります。赤、黄、青は…。目玉のようなものは…。</p>	<p>・友人の見方や感じ方に触れて、自分の読み札に付け加えたい言葉や文があれば、ワークシートに付け加えさせる。</p> <p>⇒ 工夫2:自分の見方や感じ方を深めるための対話的な活動の場の例(p.5)</p> <p>友人に伝え合うことで、自分の考えが確かになったよ。「〇〇」という考えは思いつかなかった。「〇〇」を付け加えてみよう。</p> <p>・作品解説を参考に、電子黒板で提示しながら、作品について簡単に説明し、形や色などには表現する人の思いや願いが込められていることに気付かせる。</p>
ま と め	<p>4 本時を振り返る。</p>  <p>【振り返りの視点】</p> <p>①作品から感じ取った形や色、イメージを自分の言葉で表現することができたか。</p> <p>②作品から感じ取ったことを友人に伝え合うことができたか。</p>	<p>・同じ作品でも、児童によって全く違う捉え方をしていた作品の一つ取り上げる。一人一人の見方や感じ方は様々であることに触れながら、作品のよさや美しさ、表現の意図や特徴などを自ら感じ取り、味わうことが大切であることを伝え、これからの鑑賞学習の意欲につながるようにする。</p> <p>・めあてに沿って、本時の活動の振り返りを行う。</p> <p>□「主体的に学習に取り組む態度」の観点で、学習活動を通して児童の学習状況を把握し、記録に残す。</p>

【対話的な活動の場】
自分なりの見方や感じ方を基にしなが、様々な方法で一人一人の見方や感じ方を深めるために、対話的な活動の場を工夫します。本時は、【個人①】→【グループ】→【全体共有】→【個人②】という流れの対話的な活動の場を計画しました。

【まとめ】
「めあて」に沿って学習したことを見つけ直し、短い言葉でまとめることで、「何が分かったのか」「どんなことが言えるのか」など、児童が自分の学びを自覚できるようにします。

【振り返り】
ワークシートを使って、何について振り返ればよいかを、児童に示します。 **振り返り**

6 児童の振り返りより

それぞれ選んだ作品が同じであっても、イメージや表現が全然ちがったので、とても楽しかったです。

人それぞれの表現のちがいにびっくりしました。ぼくは、迷路をイメージしたけれど、友人は買い物をイメージしたそうです。みんなちがうことを考えていて、とてもおもしろかったです。

みんなの作品のとらえ方や表現の仕方が、私が思っていたことをさらに上回っていて、みんなの考えを聞いているとき、とてもわくわくしました。

友人に伝え合うことで、自分の考えを確かにし、様々な見方や感じ方があることに気付くことができています。

形や色、イメージを自分なりに考えることができました。イメージを考えるときに、いろんなことがうかんできて楽しかったです。

世界には、こんなにもたくさんのアートがあるんだなあと思いました。

私は、いろんなアート・カードの作品を見て、どんな意味がこめられているのだろうと思いました。

形や色などのよさや美しさ、表現する人の思いや願い、時代や地域によって表し方が異なることなどについて、自分なりに感じ取ったり考えたりすることができています。

振り返りでは、2つの視点に対して、児童全員が肯定的に答えていました。また、友人の考えを知ることで、一人一人様々な見方や感じ方があることに気づき、受けとめることができました。互いのよさを見いだすことは、豊かな人間関係をつくりだすことになり、そうした関係は、楽しく豊かな生活を創造することにもつながります。教師が、日頃から一人一人の児童のよさや個性などを認め尊重することにより、児童は、自分のよさや個性が教師から大切にされていることを実感し、友人のよさや個性も大切にしようになると考えます。



7 本時における指導と評価の工夫

工夫1:導入場面での鑑賞する視点の提示の例

導入では、「鑑賞するポイントは〇〇です。」と、教師が最初から提示するのではなく、「アート・カルタ」ゲームを行いながら、鑑賞するポイントとなる造形的な視点を児童から引き出しました。本時における導入を以下に示します。



①アート・カード5枚を黒板に貼り、よく見えるように、児童を黒板前に集合させます。



②教師が出題者となり、「アート・カルタ」ゲームを行います。



③教師の出題したヒント(読み札)や児童から出た気づきを板書して、学習の理解を促したり、児童が学習の中で振り返ったりできるようにします。

【導入での教師と児童とのやり取り】

T: 5枚のアート・カードの中から、1枚選びました。先生がどのアート・カードを選んだのか、みんなに3つヒントを言うので当ててください。

C: はい。

T: 第1問。ヒント①。黄色です。背景も薄い黄色です。

C: あれかな。

T: ヒント②。お客様が来られるよ。部屋を明るくしたいな。

C: えっ？

T: ヒント③。丸い花びんが1つあって、その花びんにひまわりの花が15本生けてあります。

C: 分かった! ■のアート・カードだ!

T: 正解。なぜ分かったの?

C: 黄色で分かったよ。ひまわりの花で確実に分かった。

T: なるほど。どんな色が使われているか、何が描いてあるかについて「色」や「形」で分かったんだね。

【色】、【形】の視点を提示

T: 第2問。ヒント①。赤・白・青・緑・オレンジ・黄・黒などたくさん色があります。

C: どれだろう。

T: ヒント②。細長い柱。足を横にしている女の子がいます。

C: どっちかな。

T: ヒント③。ミーンミーン、暑い夏。読書に夢中。

C: 分かった! ◆のカードだ!

T: 正解。なぜ分かったの?

C: ヒント①②で2つにしばって、ヒント③で暑い夏の感じがするのは◆のカードの方だって分かった。

T: なるほど。～な感じがした「イメージ」から読み取ったんだね。

【イメージ】の視点を提示

このようにして、全体で「アート・カルタ」ゲームを行い、形や色、イメージに着目させながら、本時の鑑賞する視点【3つのポイント】を提示しました。

『学習指導要領解説 図画工作編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い2(3)』において、各学年における[共通事項]の(1)アの指導に当たって配慮する事項が示されています。[共通事項]の(1)アは、知識に関する指導事項です。自分の感覚や行為を通して、対象や事象を、「形や色など」(低学年)、「形や色などの感じ」(中学年)、「形や色などの造形的な特徴」(高学年)などの造形的な視点で捉える経験を重ねながら、次第に児童自身が気付いていくようにします。

造形的な視点は、図画工作科ならではの視点であり、図画工作科で育成を目指す資質・能力を支えるものです。必要に応じて、前学年で捉えた事項を取り上げて確認し、学習しながら次第に新たな捉え方ができるようにすることが大切です。



工夫2:自分の見方や感じ方を深めるための対話的な活動の場の例

鑑賞する視点【3つのポイント】(形や色、イメージ)を基に、自分が選んだアート・カードの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて、感じ取ったり考えたりしたことを、ワークシートに記入していきます。記入したものが「アート・カルタ」の読み札になります。一人一人の見方や感じ方を深めることができるように、学習形態を【個人①】→【グループ】→【全体】→【個人②】という流れで、学習計画を考えました。



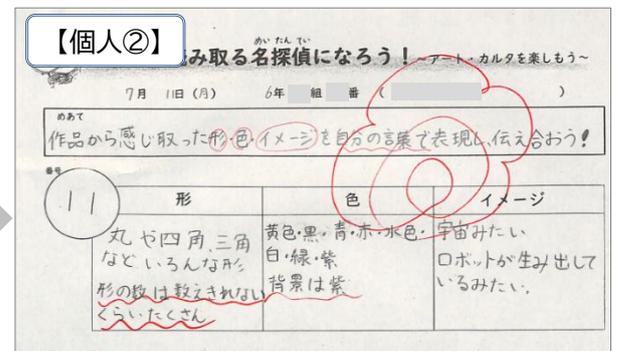
①個人で考えます。アート・カードの作品の中から、自分が気に入った作品を選んで、【3つのポイント】を基に、感じ取ったり考えたりしたことをワークシートに記入します。



②グループで「アート・カルタ」ゲームを行います。ワークシートに記入した自分の読み札を出し合うことで、一人一人の発表の場ともなります。



③グループの代表者を決め、その読み札を使って、全体で「アート・カルタ」ゲームを行います。教師は、児童から出た考えを、【3つのポイント】ごとに整理しながら板書します。



④再度個人で考えます。例えば、「自分の読み札を見直し、付け加えたい言葉や文があれば、赤色等で記入する」「別のアート・カードの作品を選んで読み札を書く」等が、考えられます。残りの授業時間の様子を見て設定します。

このように、【個人①】の場面を設定することで、自分で作品を選び、自分の見方や感じ方を大事にすることができます。【グループ】、【全体】の場面を設定することで、自分の考えを友人に伝えることができるとともに、友人の多様な見方や感じ方に触れ、一人一人の見方や感じ方は様々であることを知ることができます。さらに、高学年では、自分の見方や感じ方を深めるために、本題材のような【個人②】の場面を設定することで、ワークシートの記述の変容や児童の振り返りの発言や記述の内容から、児童の見方や感じ方がどのように深まったのかを見取り、評価に生かすことができます。



8 授業者の声

本題材では、アート・カードを使った「アート・カルタ」ゲームに取り組みました。アート・カードには様々な美術作品が掲載されています。ゲーム形式で友人と交流することにより、作品のよさや美しさなどを能動的に感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることをねらいとしました。本時において、児童は作品の鑑賞を楽しみ、学習に意欲的に取り組むことができました。また、友人に伝え合うことで、自分の考えを確かにし、一人一人様々な見方や感じ方があることに気付くことができました。そして、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて、自分なりに感じ取ったり考えたりすることができました。自分の見方や感じ方を深め、鑑賞活動に興味や関心をもつ機会となったと考えます。

課題として、「時間配分」が挙げられます。ゲーム後に対話を通して読み札を見直す【個人②】の時間を確保するためにも、教師の指示は簡潔にして、児童自身で考え、深めていけるような授業構成が必要だと感じました。また、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など、次の題材では、鑑賞する対象や鑑賞の方法を高学年の児童の社会的、文化的な関心の広がりに対応したものに工夫していく必要があります。児童が、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、自分にとっての意味や価値をつくりだし、生活の中で見える世界を更に広げていくことができればと思います。